

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

| | | | | |
|----------------|--------|--------------|-----------|------|
| 施策コード | 17 | 施策名 | 子どもの教育の充実 | |
| 小施策コード | 17-3 | 小施策名 | 高等学校教育の充実 | |
| 小施策 主管課等コード | 202500 | 小施策 主管課等名 | 学務教職員課 | |
| 評価責任者名 | 久保 智克 | | 内線番号 | 7320 |
| 評価シート作成者名 | 吉田 清光 | | 内線番号 | 7321 |

Step 1 施策目標の達成状況

| まちづくり指標 | 目指す方向 | 単位 | 25年度 実績 (当初値) | 27年度 実績 | 28年度 実績 | 31年度 目標値 | 36年度 目標値 |
|------------------------------------|-------|------|---------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【小学校4年生・国語】 | ↑ | ポイント | 110.6 | 110.4 | 110.6 | 113.0 | 113.0 |
| 小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【小学校4年生・算数】 | ↑ | ポイント | 108.4 | 107.4 | 107.0 | 110.0 | 110.0 |
| 小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・国語】 | ↑ | ポイント | 103.8 | 105.0 | 105.8 | 107.0 | 107.0 |
| 小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・数学】 | ↑ | ポイント | 102.2 | 101.4 | 102.2 | 105.0 | 105.0 |
| 小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・英語】 | ↑ | ポイント | 103.2 | 104.2 | 104.2 | 105.0 | 105.0 |
| 体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【小学校5年生・男】 | ↑ | ポイント | 97.8 | 99.7 | 97.8 | 101.0 | 101.0 |
| 体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【小学校5年生・女】 | ↑ | ポイント | 100.5 | 100.1 | 99.5 | 101.0 | 101.0 |
| 体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・男】 | ↑ | ポイント | 100.4 | 99.9 | 101.0 | 102.0 | 102.0 |
| 体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・女】 | ↑ | ポイント | 100.2 | 100.1 | 100.0 | 102.0 | 102.0 |

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標, ↓：数値を下げていくことを目標とする指標, →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

| 対象（誰（何）を対象として行うのか） | 意図（対象をどのようにしたいのか） |
|--------------------|---|
| 高校生 | <ul style="list-style-type: none"> 学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。 |
| 現状と課題 | 生徒一人一人の進路目標を達成するため、ソフト・ハード両面からの教育環境の整備充実を図る必要がある。 |
| 取組の方向性 | 学力の向上と部活動・特別活動の充実を図るとともに、規律のある生活習慣の確立と保健衛生・安全指導を推進するほか、一人一人の個性や希望を生かした進路指導の充実を図る。 |

Step 3 小施策指標の推移

| 小施策の指標 | 目指す方向 | 単位 | 25年度実績 (当初値) | 27年度実績 | 28年度実績 | 31年度目標値 | 36年度目標値 |
|-----------------------------------|-------|----|-----------------|--------|--------|---------|---------|
| 進学・就職進路達成率（進学・就職進路達成者数（実人数）/卒業生数） | → | % | 98.3 | 99.0 | 98.5 | 98.5 | 98.5 |
| 国公立大学合格率（合格者数（実人数）/卒業生数） | → | % | 15.3 | 11.4 | 14.6 | 15.0 | 15.0 |

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

Step 4 市民ニーズの把握

平成25年3月議会では校舎の老朽化について、12月議会では就職状況についての質問があり、また、平成28年3月議会では英語科の廃止や、個性ある市立高校づくりに努めてほしい旨の質問があり、市民の市立高等学校に対する要望や関心は強いものである。

市としては、文武両道の教育方針の下、盛岡市民の期待と要望にこたえるため、生徒一人ひとりの個性の伸長と能力開発に努め、心身ともに健全で連帯を重んじ協調性に富む、調和のとれた人間形成を目指す。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

| | | 役割の内容 | 役割分担 比率 (%) |
|---------------|--------------|--|----------------|
| 各主体の 役割の状況 | 市 | 盛岡市立高等学校は、県内唯一の市立高等学校である。そのため、市民の寄せる期待も大きい。 | 70 |
| | 国・県・ 他自治体 | 教育活動は、県立の高等学校と連携を密にして進めている。また、教員の人事やサービスにおいて県立高等学校と一体となった運用を行っている。 | 15 |
| | 市民・ NPO | 学校教育の振興のためPTAなどの支援が積極的に行われている。 | 10 |
| | 企業・ その他 | 生徒の進路実現のため、採用に係る企業等の役割がある。 | 5 |

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

盛岡市として、市民の期待と要望にこたえられるよう、次代を担う有為な人材を育成する高等教育の場が必要であり、そのため、生徒一人一人の個性の伸長と能力開発に努め、心身ともに健全で連帯を重んじ協調性に富む、調和のとれた人間形成を目指しているため、現状維持とするもの。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 施設の老朽状況や利用状況などを踏まえた上で、修繕の優先順位をつける。
- ・ 建替え又は大規模改築等について、費用対効果、適正規模等の検証等を行いながら、今後の市立高等学校のあり方について検討していく。
- ・ 岩手大学の教職大学院と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての教員研修を実施し、教員の能力向上を図る。
また、それにより、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。

2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

| 改革改善案 | 具体的な取組(予定)内容 | 状況 |
|--------------------------------|---------------------------------|----|
| 施設修繕の優先順位をつけること | 優先順位つけた上で、平成28年度は第一体育館屋根塗装修繕を実施 | A |
| 建替え又は大規模修繕等について、今後の市立高校のあり方の検討 | 市立高校の建物のあり方について検討 | B |
| 教職大学院との連携による教員研修の実施 | 授業改善について、教科の枠を超えて学ぶ教員研修会を3回実施 | A |

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 生徒が志望する大学に進学している。(国公立大学合格者実数40人)
- ・ 生徒が志望する就職先に就職している。(13年連続 就職率100%)
- ・ 生徒が部活動や各種行事に意欲的に取り組んでいる。

(2) 成果をあげた要因

- ・ 受験に向けた指導や進路指導を効果的に行うことにより、学力の向上を図る授業が充実した。
- ・ 文武両道の教育方針の下、生徒一人一人の進路目標の実現に向けて、3年間を見通した進路指導計画に基づく指導や生活指導と一体化した進路指導等に取り組んできた。
- ・ 就職支援相談員の配置により、企業が求める人材と生徒の希望や能力とを効果的に結びつける就職支援が行われ、進路指導が充実した。

(3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

- ・ 教育の成果については、長期間継続的に取り組むことが必要であることから、引き続き、学力の向上を図る授業の推進と進路指導の充実に努める。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

- ・ 進路目標の実現を目指し、一人一人を生かした進路指導の充実が求められている。
- ・ 年度計画で長寿命化修繕を行っているが、修繕を要する箇所が多数生じている。

(2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 教育ニーズの多様化・高度化により、言語活動を重視し、対話型授業によるコミュニケーション能力の育成が求められている。
- ・ 昭和57年に建築した校舎等建物が、35年を経過して老朽化が年々進行しているため。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 他校視察や実践的教員研修による教員の能力向上を図る。
- ・ 短期的な課題としては、限られた財源の中で、適切な優先順位をつけて着実に修繕を行うこと、長期的な課題としては、今後の市立高等学校の建物のあり方を検討していく。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 建替え又は大規模改築等について、費用対効果、適正規模等の検証等を行いながら、今後の市立高等学校のあり方について検討していく。
- ・ 岩手大学の教職大学院と連携し、生徒がモチベーションを高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての教員研修を実施し、教員の能力向上を図る。
また、それにより、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。